

令和4年度 北九州市指定管理者の評価に関する検討会議
(第3回)

日時：令和4年7月20日(水)
10:00~12:00
場所：本庁舎15階 15C会議室

≪議事次第≫

- 1 開会
- 2 議事次第説明等
- 3 所管局に対するヒアリング

時間	ヒアリング対象課	評価対象施設
10:10 ~10:30	教育委員会 中央図書館 運営企画課	門司図書館
10:30 ~10:40	教育委員会 中央図書館 運営企画課	戸畑図書館
10:45 ~11:05	産業経済局 スタートアップ推進課	北九州テレワークセンター
11:10 ~11:35	産業経済局 次世代産業推進課	北九州学術研究都市

(1) 門司図書館【教育委員会 運営企画課】

- ア 施設所管課から評価のポイントについて説明
- イ 質疑応答

構成員：ところどころ、指定管理者の評価というよりは、市の制度自体についての提言みたいな内容が入っており、ここに書くべきものなのか。指定管理の制度自体に対する改善点は、図書館の評価の根拠ではないと思うが。

所管課：根拠にならないことはない。結論を導くための前段として、色々ある中の要素の一つとして書かせていただいた。

構成員：指定管理制度自体をどうこうするというのではなく、門司図書館の評価の根拠を書きいただきたい。

指定管理制度が、曲がり角に来ているというのは重々承知している。ただ、それを言い出すと、すべての施設の評価に、これを書く必要が生じる。

所管課としては、その辺苦労しており、当然、指定管理者も苦労されているのはよく分かる。おそらく、行政経営課も認識している部分は大きいと思うが、それを評価内容に書くかどうか。他の評価では全く書いてないので、なんで図書館だけ書くのかという話。

所管課：ご意見として聞く。ただ、その結論は、持ち帰ってまたお返しさせていただく。

構成員：図書館の貸出者数の実績数値について、老朽化も進んでいるなどの事情があり、他

と比べても右肩下がりで減っている状況かと思う。そもそも、北九州市の人口減少とともに減っていると書いてあると思うが、その認識でいいか。それとも、他の図書館との関係の中で利用者を減らしているのか、そのあたりの評価をお聞かせいただきたい。

所管課：各館状況が違うので、一概に言えないところがあるが、位置的な問題と、建物の構造上の問題、それから門司は、全区で一番高齢化が進んでおり、なかなか行きにくいといった問題もあると判断している。

構成員：単館の評価なのか、全体館の評価なのかが分かるようにしていただきたい。

構成員：入館者の達成率からすると評価レベル3は妥当だと思うが、単純に入館者の要求水準が高すぎる気もする。実際に記述の中で人口減少、少子化、高齢化が進んでいて、図書館利用が落ちているとある。そもそも、人口が減っていく中で市民が利用する図書館の入館者や貸出冊数が、右肩上がりが増えていくのは普通に考えるとない。指定管理者はどんなに頑張っても達成できないという状況になっていないか。

所管課：次期指定管理者の選定に関しては、人口減少を加味して要求水準を設定した。過去は多分加味していないと考えられる。

構成員：SNSに関する記述があるが、具体的に何をやっているのか。検索しても出てこない。

所管課：今年の一月から、Facebookを運用している。名前は、「北九州の図書館情報まとめて拾い読みページ」。

構成員：利用者アンケートの満足度について、無回答も100%の母数に入れた数字になっていないか。無回答は外して集計が妥当ではないか。

構成員：光熱水費の低減に関する評価内容の理由・要因・原因分析のところ、指定管理者の努力ではどうにもならない」と書かれて、「指定管理者でも光熱水費の削減に取り組む必要がある」と書かれると、どう読んでいいのか分からない。記載内容を、整理いただきたい。

所管課：指定管理者から、指定管理期間を延ばしてくれれば、設備投資など色々できると提案がきている。

構成員：私が言いたいのは、ロジックの通らない記述で内容が分からないということ。

やはり全体的に、担当課としての問題意識は分かるし、全国的にも指定管理行政の色んな矛盾など問題点があるとは思いますが、ところどころ記述が気になる。行政経営課と調整し修正いただきたい。

(2) 戸畑図書館【教育委員会 運営企画課】

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

構成員：利用者数、貸出者数の推移は、休館期間を割り戻して考えると比較的良い実績になっている。また、各年度の講座なども、かなり積極的になされていたよう。それなのに、門司と同じ評価レベル3なのは、どうしてなのか。

所管課：戸畑図書館は、門司図書館に比べると活動は活発化しているが、指定管理17年になり、ほぼマンネリ化している。それに比べて、門司図書館は高齢者化が進んだので高齢者向けの映画をやるとか、地域連携をしっかりしている。

構成員：評価内容に、2040年と書いてあるが、日本の高齢者人口がピークになる問題という理解でよろしいか。そうなら、誰もが見てわかるよう、説明を補記していただきたい。

構成員：最後の総合評価について、門司図書館と戸畑図書館とで、それぞれの取組みの特色を記載し、区別していただきたい。

(3) 北九州テレワークセンター【産業経済局 スタートアップ推進課】

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

構成員：施設の設置目的の達成について、実績からすると評価レベル5でも良いと思うが、5にした根拠を教えてください。

所管課：目標を大幅に上回る実績があれば、評価レベル5にした。コロナを踏まえても、全ての実績が目標を上回っていたら5を付けたいと考えた。

構成員：コロナ禍でビジネスマッチング件数とセミナー開催数が、令和2、3年度が減っており、オンラインと親和性があると思うが、そうでなかったのか。

所管課：オンラインを活用して創業相談を受けられる体制を作ったが、ビジネスマッチングは、やはりオンラインではなかなか難しい現状。

構成員：オンラインセミナーも難しいのか。工夫されている点があればと思ったが。

所管課：セミナーという切り口で、交流会のようなことをしていたが、コロナにより制限され、例年より大幅に減ってしまった。

構成員：経費の低減と収入の増加の評価について、入居率が高いという理由で収入の増加は5評価でいいと思う。しかし、経費の低減は、入居率が上がって市の経費削減になっているという理由はいかがか。入居の増加とは関係なく、光熱水費を経費節減の努力を評価根拠とする方が適切ではないか。

所管課：経費節減に向けたチェックは、かなり積極的に行っており、それが結果的に経費節減につながったと評価している。

構成員：評価内容の記述を少し整理いただきたい。

構成員：報償費制度があるが、予算と決算や、要求水準と実績値が大きく乖離している理由はなにか。

所管課：予算と決算の乖離が大きいのは、オフィスの入居率と市の負担となる共益費が負の相関関係となっており、オフィス入居率が下がった場合を考慮し、大目に予算を組んでいた。実際には、入居率が90%や100%を達成したので、市の負担となる共益費の支出が抑えられたため予算と決算が乖離した。

今回指定期間から全面リニューアルでの運営だったため、目標を立てる際は、そ

れ以前のリニューアル前の実績を基にしたことが大きいと考えている。次の目標設定は、今回の実績を踏まえて見直しを行うこととしている。

構成員：スタートアップ支援は、福岡市が飛びぬけている印象があるが、北九州市ならではのいいところがあるので、福岡市と違う北九州市ならではの部分に力を入れていただきたい。

所管課：令和2年度に、国のスタートアップ支援の拠点都市の選定を受け、北九州市の強みである、環境、ロボット、DX分野の3本柱を中心にスタートアップ支援を行っている。スタートアップ企業の皆様方からも、良いという評価をいただいているので、この取り組みを続けて成果を上げていきたい。

構成員：利用者満足度のアンケート結果表について、内容が不明なのでタイトルを入れていただきたい。

構成員：利用者アンケートについて、性別の男性・女性の回答が必須になっている。ダイバーシティ、ジェンダーの問題で、少し選択肢を工夫したり、無回答でも進めるようにしたりするとか、工夫していただきたい。

(4) 北九州学術研究都市【産業経済局 次世代産業推進課】

ア 施設所管課から評価のポイントについて説明

イ 質疑応答

構成員：評価については、根拠も特にコメントはなく妥当。

構成員：アンケートの取り方について、平成30年度から令和元年度にはサンプル数が凄く多いのは外注されたからという理解でよいか。令和2年度、3年度が減っているのは、コロナ禍でネット回答になったので減ったという理解でよいか。

また、増えたり減ったりした事によって、満足度は同じ傾向だったのか、どうなのか教えていただきたい。

所管課：アンケートの取り方は、ご認識のとおり。

構成員：ネット回答へ変更した際、告知はどうされたのか。

所管課：事前に告知をしているが、あまり浸透しておらず、また、ネット回答が行える方も少ないように思う。引き続き、周知していく必要があると考えている。

アンケート結果は、サンプル数は減っても、同じような傾向。施設の改善に関する提案がっており、トイレをもう少し綺麗にした方がいいなど、主にハード面の修繕要望がある。

構成員：「意見や要望を吸い上げて迅速に対応している」との評価内容について、具体的な取り組みにハード面での要望改善があるが、これは指定管理者が指定管理費の中でやりくりして設置したり、ウォシュレット化したり、横断幕設置スペースの設置をしたり、照明のLED化をしたりするなど、指定管理者の努力と理解してよいか。

所管課：修繕は、指定管理費の範囲内で指定管理者が実施している。効率的に必要なもの

を絞りながら入札にかけるなど、コストダウンを図りながら目的を達成する、といった取り組みを日々努力されている。

構成員：評価の根拠指標について、全体的な満足度だと指定管理者ではどうしようもない所も含めた満足度になる。指定管理者の努力によって上がったり下がったりする、例えば職員の対応といったものを入れていただき、指定管理者の努力・成果が満足度の所でも分かるようにしていただきたい。

構成員：使用料収入が予算を下回るものの、コロナ禍においても頑張っている印象。一般開放施設としての一般開放期間での稼働率が目標を上回っていることは、よく理解できたが、収入の内訳が分からない。

使用料収入は、研究室に入居されている人の部分が大きいのか。使用料収入が維持できている要因はどのように捉えたらよいか。

所管課：使用料収入の大部分は、研究室の使用料収入になっている。宿泊室もあるが、令和2年度から使えなくなった。

収入を維持できている要因は、指定管理者に学研都市を運営する長いノウハウがある。色んな関係機関、企業との連携があり、企業との人脈や交流関係を持っている。コロナ禍ではあるが、今ある人脈を活かしながら、空いた部屋には企業を入れたり、入居者に対して追加でプロジェクト実施の働きかけをしたりした結果、稼働率も維持しながら収入を維持している状況。

構成員：よく分かった。今説明のあった内容を少し補記いただきたい。

構成員：メインは、オンラインや研究施設でありながら、運動場や体育館といった施設も含まれているが、一帯で管理することがこの施設の魅力なのか。それとも、本当は分けた方が良いとお考えか。

所管課：一般の方にも開放している施設があるが、大学や研究機関がメインになっているので、そこを切り分けるよりも一帯運営の方が効率的だと理解している。

4 第3回とりまとめ

構成員：学研都市のネットアンケートについて、回答者の数がかなり減ったのは気になるところ。誰からアンケートを取っているか、取るべきなのかを含め、掘り下げて確認いただきたい。

5 その他（次回会議について）

6 閉会